



学習支援

わたしたちは、「教える」のではなく、「支える」ために存在するという学校支援コーディネーター。例えば、「筆を立てて」と先生が言っても、習字をやったことのない児童にとっては鉛筆と同じ持ち方になってしまう。そのとき、少し声を掛けるだけで、授業の進み具合は、ずいぶん違うといいます。

特集 いつも、そばに

学校支援地域本部事業がスタートしています —特集9ページまで—

問合せ 生涯学習課 地域連携係 ☎9204

■ 学校支援地域本部事業

学校支援地域本部とは、学校のニーズに応じて学校の教育活動を地域の皆さんが支援するという、いわば「地域に作られた学校の応援団」活動です。

その組織は、支援の方針などについて企画・立案を行う「地域教育協議会」、学校とボランティアや、ボランティア間の調整を行う、実質的な運営を担う「地域コーディネーター」、実際に支援活動を行う「学校支援ボランティア」から構成されます。

これまでも、学校は地域の皆さんから、さまざまな支援を受けていただいています。その多くは特定の教職員が持つ地域の情報によって、依頼をしてきました。

しかし、学校支援地域本部を設置することによって、地域コーディネーターを介して、学校と地域との組織的な連携協力が可能になりました。

■ 支援内容

これまで地域の皆さんが行ってきた支援内容についても、学校のニーズに応じて、継続していきま

すが、さらに、特徴的なものとして「学習支援」があります。それは、これまで、何かしらの知識や技能を持っている人に限られていたゲストティーチャーとは異なり、学校を支援したいという気持ちのある人であれば、誰にでもできる支援で、授業の中で教員の指導内容の補助をしていただくことができます。

例えば、小学校では3年生から書写の授業が始まりますが、初めて毛筆を持つ児童も多く、なかなか教員の指導どおりに毛筆を扱うことができません。そんな中、数人の学校支援ボランティアがいてくれば、児童の状況に応じて一人一人の児童に声掛けを行い、教員が指導した内容を児童に徹底させることができます。

また、入学当初の小学校1年生は学校生活に慣れていないため、きちんと席に着いてもらえない子どもや、教員の話を集中して聞くことができない子どもなどがいて、教室が落ちつきがないことがあります。次第に学校生活に慣れてきて、落ちついて学校生活を送ることができるようになるのですが、学校支援ボランティアが支援をする学級では、きめ細かな指導ができ、児童もより安心して学習しています。

社会がますます複雑多様化し、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、これからの教育は、これまで以上に学校、家庭、地域の連携協力が求められています。

そうした中、市では、平成21年に「大野中学校区学校支援地域本部」を、平成22年に「友和小学校区学校支援地域本部」を設置。地域の皆さんからの支援をいただきながら、学校経営を行っています。

スタートして2年が経過した廿日市市の学校支援地域本部。その取り組みを紹介します。